

夢きよく 道はるか



“分”から“結”へ

1月26日(水)より、分散登校が始まりました。3学期は短い期間ですが、進級、進学をするのにあたり、とても大切な時間です。学習はもちろん、通常なら、3年生に感謝の気持ちを伝えるとともに、1,2年生の学年を超えたまとまりをつくっていく、3年生に贈る会の取組を本格的に進める頃でした。3年生にとっても卒業までの日々が残り少なくなっていく中で、みんなで過ごす時間が半分になってしまいました。2学期スタート時を思い出し、半数以上に広く感じる教室を想像しましたが、少し違っていたのは、逢うことのできない仲間に向けたメッセージを掲示する場所があらかじめ用意されていたり、時間は違っても、逢えない仲間と同じ場所を共有している事実を、生徒はしっかりと理解しているようでした。

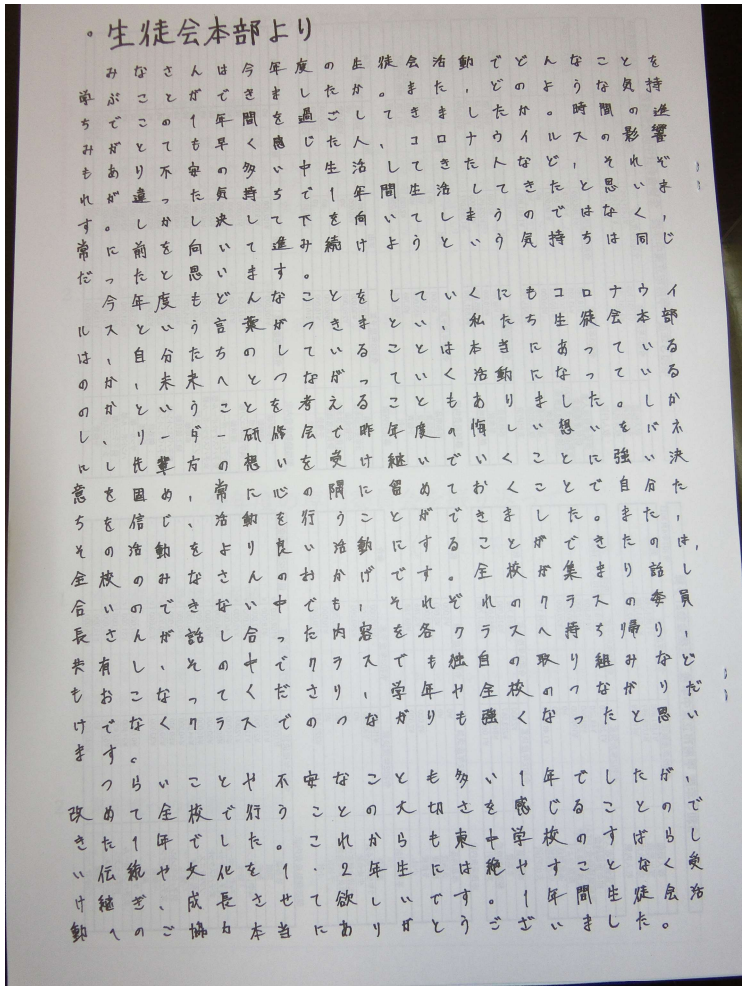
2月14日(月)からは、3年生の分割授業、1,2年生の分散登校オンライン授業が始まりました。少しずつみんなの距離が近づき、3年生は全員での登校になりました。しかし、密を避けるためには2倍の教室数を確保しなければならず、本校のような大規模校では大変難しいことでした。それでも知恵を出し合い、図書室やPC室も含めて、何とか教室を確保することができました。クラスの仲間と一緒に過ごすことはできませんが、登下校や休み時間等、顔をあわせることはできるようになり、生徒はやっぱりうれしそうでした。授業中、教室ではない別室で学ぶ生徒たちの姿もとても真剣で、さすがに3年生だと思とともに、卒業までの時間を大切にしようとする想いも感じました。1,2年生は、まだ全員で登校することができませんが、それでもオンラインでつながることにより、生徒も教師も、今までと違う一体感を感じるすることができました。朝の会で、教室にいない生徒が Classroom に一人ひとり入ってくると、何かワクワクする感じがありました。

教室数や教師の人数、ネット環境等のこともあり、もちろん全てが上手くいっているわけではありません。それでも具体的に動き出したことにより、確実な成果と取り組まなければならない課題も見えてきています。全員がそろって登校することが一番の願いですが、不確かな未来を切り開いていくための準備が、少しずつ整ってきています。そしてそうできるのも、生徒や保護者の皆さんの互いを想う気持ちがあるからこそだと思っています。コロナ禍の折、抗原検査キットを配付しなければならないことがあります。そんな時、本校の保護者の皆さんは「お疲れ様です。」とあたたかい声を職員にかけてくださいます。涙が出る想いです。ご協力、本当にありがとうございます。



息吹が聞こえる

右は、今年度の生徒会活動のまとめとなる生徒評議会の資料に載っていた、生徒会本部からのメッセージです。この会も紙面提案となりましたが、あたたかくて強い想いが伝わってきます。登校している生徒数もふれあう機会もが少ない現在ですが、校内を歩いていると生徒の気持ちを受けとめることができます。本校の子供たちは、前に進んでいこうとしています。「総創」しています。



あたたかい

校舎内を歩いていると、季節折々に変化していく掲示物に気がつきます。生徒会活動等で生徒自身がつくっているものもそうですが、本校には、先生方がつくってくださっているもので、学ぶことができたり、ほっとした気持ちにさせてくれるものがあります。1階の渡りを南館から北館に進むと、右側に棚が見えてきます。今はそこに、おひな様と、合格を祈願したものが飾られています。これは宮田先生が、日本の文化について学ぶことができ、生活中に潤いがあるようにとつくってくださったものです。

また、南館の廊下を東に進みピロティを越えると、左側に立体的な掲示物が現れます。今は、感染症対応の取組をわかりやすく説明したものが掲示されています。これは内藤先生が、生徒の健康や健全な成長を願ってつくってくださったものです。どちらのものからも、細やかな気遣いや優しさを感じることができます。コロナ禍の折ですが、気持ちがあたたかくなります。

